

ひと まち 輝く
キラリ★
kirari

箕面市立みのお市民活動センター

(指定管理者:(特活)市民活動フォーラムみのお)

〒562-0013 箕面市坊島4-5-20

みのおキューズモールWEST1-2F

TEL. 072-720-3386 FAX. 072-720-3387

<http://www.shimink.jp/>

Vol. 17

令和7年(2025年)12月発行

トピック

当事者と社会のつながりのために
夢中になれる時間を、
今度は子どもたちへ



箕面難聴者サークル「木かげ」
代表 谷回 学さん

撮影 omou photo 犬山 真樹子



当事者と社会の

つながりのために

現在の活動について

「箕面難聴者サークル・木かげ」は、聞こえの悩みや困りごとを安心して共有できる交流の場です。木かげでは、要約筆記・手話・筆談・自動音声認識ツールなど、多様なコミュニケーション手段を使って、参加者全員が同じ情報を共有できるよう工夫しています。さらに、手話の学習や、最新の情報保障機器について知る機会もあり、交流と学びの両方を大切にしています。特に、手話に馴染みのない難聴者にとって、要約筆記はその場の全員が同時に話し言葉を文字情報として共有できる不可欠な情報保障手段 となっています。聞こえにくさを気にせず、「自分は一人ではない」と感じられる“難聴者のホットステーション”として、仲間と交流し安心できる居場所づくりを続けています。

そして「大阪府中途失聴・難聴者協会」でも、やはり同じ想いで理事長を務めています。こちらは委託事業として、要約筆記者を育てる確保事業とその派遣事業を、公費外派遣の仲介も含めて行っています。

どちらも代表職は前任の方から引き継いだ形になりますが、とても苦労されていたのだと実感しています。ですが大変な中でも、新しい会員さんが「ここに来て良かった」と笑顔を見せて下さるのはやっぱり嬉しいですね。先代から重視しておられた「どの方にどんな役割を担ってもらうか」という所を大切にしています。

「箕面市障害者市民施策推進協議会」構成員も10年以上務めていて、昨年の「箕面市手話言語条例・箕面市障害者情報コミュニケーション促進条例」の制定に注力しました。

また、「全日本難聴者・中途失聴者団体連合会(全難聴)」の理事として、今年新たに立ち上げた労働・雇用対策専門部の部長や、全難聴近畿ブロック協議会の座長(R7年度)も務めています。

兼業となり毎日忙しいです、いろいろと手を出し過ぎたかもしれませんね(笑)。趣味で集めたクラフトビール、特に箕面の地ビールを飲んで癒されています(笑)。

きっかけの一步から社会に引き戻してくれたつながりへ

20歳頃から耳が聴こえづらくなっていったのですが、当時は検査でも原因が分からず、徐々に仕事にも支障が出るようになり離職まで考えるほど辛かった。不眠と孤独感でメンタルもひどく落ち込み、周囲に対する自己否定の念から「透明人間」のような感覚に陥り、まさにどん底でした。

ですがその頃に、たまたまオンライン上で聴覚障害の方々のチャットグループを見つけたんです。それを見た時に「こんなかたちのコミュニティがあるんだ」と大きく関心を持ったんですね。ただ、同じ聞こえの不自由でも、その種類や症状によって苦労は異なり、抱える悩みも、視点も違います。私の場合は、言語明瞭度の低下により、聞こえてはいるが言葉として捉えられなくなるというもので、全く知らない外国語を初めて聴き続けているような感覚に少し近いかもしれません。補聴器も効果がなくなっていき、症状が後発のため当初は手話にもなじみがありませんでした。

そこで、自分でもグループをつくってみました。すると当事者だけでなく、手話通訳者や要約筆記者など200人もの方々が集まってくれたんです。この時、仲間と出会い「同じ苦しみを持つのは自分だけではない」と知り、同時に「必要とされている」とも感じるようになりました。そうして視野が広がり、少しずつ実社会でも活動に踏み出そうと気持ちも動き、以前から妻に紹介されていた「木かげ」に初めて参加してみることにしたんです。

そこで要約筆記を実際に見学したのですが、聞こえなくてもその場の皆で会話ができていう状況に衝撃を受け、「こんな世界があるんだ」「これなら仕事もなんとかできるかもしれない」と、いろんな考えや感情が一度に混じり出て、涙が出ました。その時の気持ちは複雑ですが、感動と、一言で語るとしたらやはり嬉しかったですね。要約筆記と仲間に出会えて本当に嬉しかった。職場にも来て頂いたことで会議等でも積極的になれたんです。

それまで独りぼっちだったはずがこうして会話の輪に入り笑い合えたことで、障害とそれを抱える自分自身を受け入れる

谷口 学さん Information

箕面在住、箕面ビールを愛する神経科学者。聴神経の障害による難聴当事者としての経験をもとに、地域での難聴者支援や啓発活動にも力を注いでいる。障害の有無にかかわらず、誰もが安心してつながれる社会づくりを目指して日々活動している。

箕面市では昨年、障害の有無に関わらず、すべてのひとが合理的配慮のもと互いに尊重し支え合う地域共生社会を目指す「箕面市手話言語条例・箕面市障害者情報コミュニケーション促進条例」が制定されました。その実現にも携わり、当事者団体として難聴者の交流や要約筆記の普及、社会への発信を進める「箕面難聴者サークル・木かげ」などの代表を務める谷口 学さんに、活動やきっかけ、社会への想いを伺いました。

勇気を得て、社会とのつながりを取り戻すことができたことにより私は救われました。そうしてそれらがきっかけとなり、自分でも驚きながらも「もっと辛い方の助けになりたい」と思うようになり、現在の活動につながっていきました。この経験が、同じ悩みを持つ人の励みになればと思っています。

これからの社会に向けて

オンライン上の活動は、コミュニティに関わるきっかけとしてはとても良いのですが、どうしても親睦までで完結してしまいがち。勇気を出してさらに一歩実社会へ踏み出すことで、より広い世界につながっていきけると思います。私自身も初めて「木かげ」に参加したその場で他の団体も案内され、その日のうちからつながりが広がっていきました。

また、全国的に比べても箕面では団体同士の連携が進んでいますが、そのつながりも、一緒になって意見交換や交流を進めてきたその過程のおかげなのだと思います。そうすることで当事者の側からも、自分たちの考えを社会に発信し、政策提言化していく必要があります。要約筆記も私たちにとって欠かせない情報保障のひとつであり権利擁護の為の手段。条例にもその制度整備や普及促進への想いが込められています。また、当事者の苦労や配慮を必要とする部分を、私たち自身も気付きとして再確認しながら伝えていけるよう、全国的なアンケート調査事業も進めています。

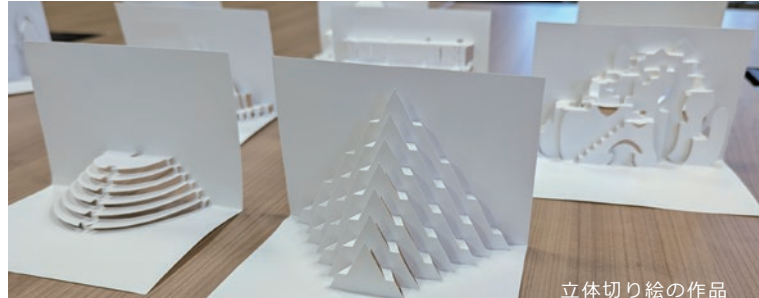
一方で、聞こえの不自由は目に見えないものであり、「情報が入ってこない」というバリアがとにかく大きい。簡易な筆談でも、視覚情報があるだけで全く違います。社会の側からの少しの配慮が本当に大きな支えになるのです。お互いが一歩踏み込む事で合理的配慮や相互理解を深め、すべてのひとが情報取得に困らない社会の実現につなげていけたら、と思います。



本記事取材での要約筆記の様子。要約筆記サークル「もみじ」のお二人(中・右)の入力した文字が谷口さんの前のパソコンに表示されます。

<団体情報>
箕面難聴者サークル「木かげ」

連絡先: 050-3629-3893
Mail: rentarouharu@gmail.com



立体切り絵の作品

夢中になれる時間を、 今度は子どもたちへ

～西小サタデースクールがくれた学びとつながり～

西小サタデースクール(以下NSS)で、今年の4月から児童に立体切り絵を教えているのが井深優司さんです。実はご本人も小学生の時にNSSに参加しており、とりわけ立体切り絵には4年生から6年生まで熱心に取り組んでいました。井深さんにとってNSSは、普段は勉強に励む学校が月2回の土曜日は違う雰囲気になり、まるで遊びに行くような感覚で通える場所だったそうです。地域のボランティア講師に教わりながら、のびのびと自分の興味のある事に夢中になれる時間で、毎回楽しみにしていたと言います。NSSでの活動を通じもともと器用だった手先はますます磨かれ、数多くの作品を仕上げるようになったそうです。かつて指導を受けた講師と共に、今は自らが子どもたちを支える立場となりました。

井深さんがやりがいを感じるのは、子どもたちの率直な反応です。「分からないことをどんどん聞きに来てくれたり、完成した時に見せてくれる笑顔が嬉しいです。」と話します。若く朗らかな雰囲気からも、子どもたちにとって親しみやすい存在になっている様です。

また、講座後に講師や地域の方々とお茶を飲みながら交流できる時間も楽しみの一つ。「自分から声をかけるのは得意ではないけれど、周りの方が気さくに話しかけてくださるので、人とのつながりが自然と広がります」と語ります。子ども時代に学んだ場は、今や地域とのつながりを深める場所としても役割を果たしています。

現在は仕事の都合で活動を一時休止していますが、3学期からの復帰の予定です。「教えることや地域とのつながりは、自分のやりたい事でもあり楽しみになっています。仕事と両立しながら長く続けていきたい。」と抱負を述べます。座右の銘は「今やれることは、今やる」。新しい一歩を踏み出そうとする人にとっても、背中を押してくれるメッセージになりそうです。

西小サタデースクール Information

地域のボランティアが主催する、子どもと地域の人たちとの交流の場・遊びの場・集いの場。

<団体情報>
西小サタデースクール(NSS)
HP: <https://saturday-nss.jimdofree.com/>



活動団体 紹介

箕面市内で活動するNPO、ボランティアグループなどの非営利公益市民活動団体を紹介します。

今回は市民活動センター内で事務所ブースをご利用されている2団体です。

ニッポンアクティブライフ箕面拠点 ナルク箕面

会員の「生きがい」「自立」を主体に「奉仕活動(社会貢献)」や「会員同士の助け合い」を推進する組織です。ふれあい広場、健幸体操、ハイキング、歌声広場、麻雀などのみんなで楽しくおしゃべりをするサークル活動や、老人介護施設での奉仕や小中学校総合学習(シニア体験)、山の清掃活動などを中心に、預託制度を活用して社会貢献活動を展開しています。みのお市民活動センターに2004年から事務所を構え、定期的に運営会議を開いているだけでなく第二水曜日の健康講座や関節トレーニング教室、第四水曜日の健幸体操があり、両日とも講師の方の指導によりテーマを毎月変え大変好評です。また、活動で繋がった様々な団体と連携して、総合協力の輪を広げています。

ナルク  みのお



ナルたん

医療的ケア連絡協議会

地域で暮らす医療的ケアを必要とする当事者、家族、医師、看護師、支援者などが集まり2002年に発足しました。医療的ケアを必要としながら生活する人々のひとり一人が「個」として尊重され、障害の程度や種類に関わらず地域であたりまえに生活できることを目指し、生活の基盤づくりのための法律の整備や社会サービスの充実を求め、支え合う活動をしています。医療的ケアとは、たんの吸引、経管栄養、導尿等、生きるために必要な“生活支援行為”です。これらのケアは、医師や看護師に指導を受けることによって、誰もができる行為です。しかし、今だに法律上は医療行為とされていることから、大半を当事者や家族だけで担わなければなりません。そのため、医療的ケアを必要とする人々は社会生活上多くの制約があり、退院できないなどの現状があります。多くの人にこの現状を理解してもらい地域でふつうに暮らすことを願って活動しています。



市民活動

フォーラム

みのお

みのお市民活動センターを
管理運営するNPO法人です。
様々な課題に取り組む
市民活動の応援をしています！

センターではこんなサービスを提供しています！

誰でも使える…印刷機、コピー機、貸会議室等
非営利公益市民活動団体が使える…年登録制：
事務ブース(貸事務所)、倉庫、ロッカー、メールボックス

団体のお困りごとに答えます！

活動支援「夢の実支援金」…団体の立上げ、事業の拡充を資金面で応援します。
団体の運営課題の解決…事務力、広報力などのスキルアップ講座を開催しています。

その他ホームページ、SNSでさまざまな情報発信をしています。

社会課題に取り組んでいる活動をアピールしています！

市民活動の紹介や被災地復興支援のイベント、市民社会講座やフォーラムを開催しています。

何かしたい！役立てたい！という思いに答えます！

ボランティア情報サイト v-info…ボランティア情報を発信しています。

みのお市民活動グループガイド…NPO・市民活動を紹介する冊子を発行し、情報提供しています。

当法人のネットワークで、いろいろな分野をつなげます！

市民活動と企業、店舗、学校などと連携することで、強みを活かした活動につながります。

